

---

はじめての  
**英語教育  
研究**

---

押さえておきたい  
コツとポイント



**浦野研 / 亘理陽一**

Urano Ken / Watari Yoichi

**田中武夫 / 藤田卓郎**

Tanaka Takeo / Fujita Takuro

**高木亜希子 / 酒井英樹**

Takagi Akiko / Sakai Hideki

KENKYUSHA



# はじめに

---

本書は、英語教育の分野でこれから研究を始めようとする方々に向けて書かれた、英語教育研究の入門書です。近年、英語教育を含む多くの研究領域で、研究の方法論に対する意識が高まり、研究法をテーマとした書籍も多く見られるようになりました。ただ、それらの多くはデータの収集方法や分析方法の解説に焦点を当てており、「どのように研究課題を設定するか」や「先行研究をどのように集め、どのようにまとめるか」といった、研究の入口に近い部分を解説したものはあまり見られないように思います。

そこで本書は、これから研究を行う大学生や大学院生、また自身の実践を捉え直したいと考えている英語教員のみなさんに、研究の基本的な部分を理解してもらうことを目的に執筆しました。

本書の執筆は、以下の7つの章について6名の共著者が分担して行いました。ただし、草稿完成後に全員が協議して加筆・修正を行っており、1冊を通して全員で執筆したと考えています。

- 第1章 研究とは何か
- 第2章 研究テーマの決め方
- 第3章 先行研究の探し方
- 第4章 研究課題とデータ
- 第5章 質的研究の進め方
- 第6章 量的研究の進め方
- 第7章 研究成果の公表方法

第1章では、研究とは何かについて、研究の定義をもとに考えていきます。第2章では、研究テーマの決め方について、どのように研究テーマを着想し、どのように深めていけばよいかを解説します。第3章では、先行研究の文献をどのように探せばよいか、そしてどのように先行研究の文献を整理して自分の研究課題につなげていけばよいかを提案します。第4章では、研究課題の設定の仕方や、研究課題の種類に応じたデータの収集法などについて解説します。第5章と第6章では、質的研究あるいは量的研究を進めるにあたり、どのようなことに注意しながら研究を行うべきかを提示します。そして、第7章では、研究成果のまとめ方、公

表の仕方について解説します。

以上のように、本書は、データの収集・分析の前段階に多くのページを割いていることを特徴とします。各章の扉には、研究にまつわる素朴な疑問を提示し、各節への導入としています。また、データを数値化して分析する量的研究と、数値化を行わずに分析する質的研究の両方を紹介し、研究課題に合った研究方法を選択するための手がかりを提供しています。

本書の生まれる直接のきっかけは、中部地区英語教育学会の課題別研究プロジェクト「英語教育研究法の過去・現在・未来」(2011-2014年)です。『中部地区英語教育学会紀要』に掲載された論文を方法論上の観点から分析し、よりよい研究を行うためのガイドラインを作ろうという目標を掲げて出発したプロジェクトが、こうして一冊の書籍という形で実を結びました。また、中部地区英語教育学会では、2005年より「英語教育研究法セミナー」を開催し、本書の筆者たちが中心となって、研究の方法論をテーマとしたセミナーやワークショップを行ってきました。そこで得られたフィードバックも、本書の内容を具体化するための参考になりました。

本書の出版にあたり、研究社の津田正さんには最初の段階からあたたかく見守っていただきました。高野渉さんには原稿全体を丁寧にチェックしていただき、細かい修正にも辛抱強くお付き合いいただきました。また、本書のきっかけとなったプロジェクトには、中部地区英語教育学会より助成金をいただいております。プロジェクトの立ち上げを認めてくださった運営委員会のみなさま、プロジェクトの報告会にお越しくださり、励ましのことばや多くの質問、意見をくださったみなさまにも御礼申し上げます。

本書の中でも繰り返し述べていますが、研究は他の研究との関係なしでは存在しえません。同様に、研究者も他の研究者とのネットワークがあっではじめて活躍できるのだと私たちは考えています。本書を手にとったみなさんが、研究を通じて様々な形でつながり、英語教育研究全体を一步前に進めてくれることを願っています。

2016年6月

執筆者代表 浦野 研

# 目次 C O N T E N T S

---

はじめに ..... iii

## 第 1 章

---

研究とは何か ..... 001

1 研究とは何か ..... 002

2 なぜ研究するのか ..... 002

2.1 研究を行う理由を考える ..... 002

2.2 学術的な研究を分野全体の発展・向上に役立てる ..... 005

2.3 自分の研究と他の研究とのつながりを示す ..... 005

3 どのような種類の研究があるのか ..... 008

3.1 研究の大まかな分類 ..... 008

3.2 実証研究の種類 ..... 009

4 どのようなプロセスで研究を行えばよいのか ..... 010

5 さらに詳しく学ぶための参考文献 ..... 013

## 第 2 章

---

研究テーマの決め方 ..... 015

1 研究を行う目的は何か ..... 016

1.1 研究を行う目的 ..... 016

1.2 研究に関する知識 ..... 017

2 どのように研究テーマを決めるのか ..... 019

2.1 自分の研究の興味がどこにあるか探る ..... 019

|          |                         |     |
|----------|-------------------------|-----|
| 2.2      | 研究テーマ選択の決定要素について考える     | 020 |
| 2.3      | 理想・現状・課題を押さえる           | 021 |
| 2.4      | 研究対象となる構成要素を考える         | 022 |
| <b>3</b> | <b>よい研究テーマを考える視点は何か</b> | 023 |
| 3.1      | 研究のタイトルから考える            | 023 |
| 3.2      | 先行研究から研究テーマを考える         | 025 |
| <b>4</b> | <b>研究テーマを決めるコツは何か</b>   | 028 |
| <b>5</b> | <b>さらに詳しく学ぶための参考文献</b>  | 030 |

## 第3章

# 先行研究の探し方

|          |                                     |     |
|----------|-------------------------------------|-----|
| <b>1</b> | <b>何のために先行研究を読むのか</b>               | 034 |
| 1.1      | 背景知識や理論的視点について学ぶ                    | 034 |
| 1.2      | これまで何が明らかにされているのかを知る                | 036 |
| 1.3      | 自分の研究の位置づけを明確にする                    | 036 |
| <b>2</b> | <b>どのように先行研究の文献を探せばよいのか</b>         | 037 |
| 2.1      | 文献検索における予備知識を身につける                  | 038 |
| 2.2      | どのように文献を検索するかを知る                    | 041 |
| 2.3      | どのように文献を入手するかを知る                    | 048 |
| <b>3</b> | <b>どう先行研究の文献を読み<br/>研究課題につなげるのか</b> | 048 |
| 3.1      | 先行研究の文献を読む際のポイントを知る                 | 049 |
| 3.2      | 先行研究の文献を整理する                        | 050 |
| 3.3      | 先行研究の文献整理から自分の研究課題につなげる             | 053 |
| 3.4      | 先行研究をもとにして研究を進めるパターン                | 056 |
| <b>4</b> | <b>参考資料</b>                         | 058 |
| <b>5</b> | <b>さらに詳しく学ぶための参考文献</b>              | 060 |

## 第4章

# 研究課題とデータ .....061

- 1 どのように研究課題を設定するのか .....062
  - 1.1 研究課題の種類を知る .....062
  - 1.2 探索型と検証型の研究課題を選択する .....064
  - 1.3 研究課題の目的と成果を一致させる .....065
  - 1.4 研究課題のレベルを知る .....066
  - 1.5 研究課題を精緻化する .....068
- 2 データ収集法にはどのようなものがあるのか...071
  - 2.1 事例研究 .....071
  - 2.2 調査研究 .....072
  - 2.3 実験研究 .....073
- 3 どのようなデータのタイプがあるのか .....074
  - 3.1 データのタイプの違いを区別する .....075
  - 3.2 データ収集の種類を区別する .....076
- 4 データの分析・解釈には  
どのような方法があるのか .....084
  - 4.1 質的アプローチ .....084
  - 4.2 量的アプローチ .....085
- 5 さらに詳しく学ぶための参考文献 .....088

## 第5章

# 質的研究の進め方 .....089

- 1 どのようなときに質的研究を選択するのか ....090
  - 1.1 文脈を考慮しながら複雑な現象を深く捉える .....090
  - 1.2 文脈を考慮しながら研究参加者の変容を捉える .....091

|          |                                       |     |
|----------|---------------------------------------|-----|
| 1.3      | 研究参加者の視点から経験の意味や認識を深く捉える              | 092 |
| 1.4      | 先行研究での対象外の現象を文脈の中で明らかにする              | 092 |
| 1.5      | 量的・質的データを組み合わせ研究の信憑性を高める              | 093 |
| <b>2</b> | <b>どのように研究参加者を選択するのか</b>              | 094 |
| <b>3</b> | <b>アプローチ、データ収集法、<br/>データ分析法の違いは何か</b> | 095 |
| <b>4</b> | <b>どのようなアプローチがあるのか</b>                | 097 |
| 4.1      | 事例研究                                  | 098 |
| 4.2      | ナラティブ探究                               | 100 |
| 4.3      | エスノグラフィー                              | 102 |
| 4.4      | GTA                                   | 105 |
| 4.5      | 質的記述的研究                               | 107 |
| <b>5</b> | <b>どのようなデータ収集法があるのか</b>               | 109 |
| 5.1      | 観察におけるフィールド・ノーツ                       | 109 |
| 5.2      | 質問紙                                   | 110 |
| 5.3      | インタビュー                                | 112 |
| <b>6</b> | <b>どのようなデータ分析法があるのか</b>               | 114 |
| 6.1      | 会話分析                                  | 114 |
| 6.2      | 談話分析                                  | 116 |
| 6.3      | テーマ分析（質的内容分析）                         | 118 |
| <b>7</b> | <b>どのように分析と解釈を行うのか</b>                | 119 |
| 7.1      | 質的データの分析と解釈のプロセスは重なりあう                | 120 |
| 7.2      | コーディングとカテゴリー化を行う                      | 121 |
| 7.3      | コーディングの信頼性を高める                        | 125 |
| 7.4      | データの妥当性を高める                           | 126 |
| <b>8</b> | <b>どのように考察を行うのか</b>                   | 127 |
| 8.1      | データ収集の段階から考察を始める                      | 127 |
| 8.2      | 厚い記述を心がける                             | 128 |



|     |                      |     |
|-----|----------------------|-----|
| 9   | 質的研究を進める上での留意点       | 130 |
| 9.1 | 質的研究の手順は研究によってすべて異なる | 130 |
| 9.2 | 主観性を認識し、研究に積極的に生かす   | 131 |
| 9.3 | 倫理的配慮の重要性を認識する       | 132 |
| 10  | さらに詳しく学ぶための参考文献      | 135 |

## 第6章

|     |                       |     |
|-----|-----------------------|-----|
|     | 量的研究の進め方              | 137 |
| 1   | どのようなときに量的研究を選択するのか   | 138 |
| 1.1 | 事象の全体的な特徴や傾向について知る    | 138 |
| 1.2 | 関連性を調査する              | 139 |
| 1.3 | 事象の差異や因果関係を捉える        | 140 |
| 2   | どのように研究をデザインするのか      | 140 |
| 2.1 | 調査研究                  | 141 |
| 2.2 | 実験研究                  | 141 |
| 3   | どのようにデータを収集するのか       | 145 |
| 3.1 | 質問紙                   | 146 |
| 3.2 | テスト                   | 148 |
| 4   | どのようにデータを分析するのか       | 149 |
| 4.1 | 目の前にあるデータを記述する        | 149 |
| 4.2 | 目の前のデータからより大きなものを推測する | 153 |
| 5   | どのようにデータを解釈するのか       | 164 |
| 5.1 | データの可視化               | 165 |
| 5.2 | 効果量                   | 170 |
| 5.3 | 信頼区間                  | 172 |
| 5.4 | 結果をどのように考察するか         | 173 |
| 6   | さらに詳しく学ぶための参考文献       | 174 |

## 第7章

# 研究成果の公表方法..... 177

- 1 どのように研究を発表するのか ..... 178
  - 1.1 発表の方法を知る ..... 178
  - 1.2 発表のルートを選択する ..... 179
  - 1.3 研究会や学会について調べる ..... 181
  - 1.4 口頭発表のポイントを押さえる ..... 183
- 2 どのように論文を投稿するのか ..... 184
- 3 どのように論文を執筆するのか ..... 188
  - 3.1 よい論文の特徴を押さえる ..... 188
  - 3.2 論文の構成を明確にする ..... 189
  - 3.3 引用の方法を知る ..... 192
  - 3.4 引用文献のリストを作成する ..... 197
  - 3.5 タイトルと要旨を工夫する ..... 200
  - 3.6 図表を工夫する ..... 203
- 4 さらに詳しく学ぶための参考文献 ..... 204

引用文献 ..... 205

索引 ..... 215

# 第 1 章

---

## 研究とは何か

- そもそも研究とはどんなものなの？
  - ▶ **1** 研究とは何か
- 英語教師が研究をする必要があるの？
- 自分流のやり方で研究してはいけないの？
  - ▶ **2** なぜ研究するのか
- 研究にはパターンみたいなものはないの？
  - ▶ **3** どのような種類の研究があるのか
- 実際にどうやって研究をすればいいの？
  - ▶ **4** どのようなプロセスで研究を行えばいいのか

# 1 研究とは何か

本書の目標は、研究（research）の進め方について、一番大切に基本的なところを理解してもらうことです。そこで避けて通れないのが「研究とは何か」という問いです。まずはこれについて一緒に考えましょう。

一般に、研究は次の3つの要素から成り立つとされています。

- (1) 研究課題（research questions）
- (2) データ（data）
- (3) データの分析・解釈（analysis and interpretation）

簡単にまとめると、研究とは、まず何らかの問い（question）があって、根拠となるデータを集めてその答えを導き出す営みとすることができます（何が「データ」となるのかについては、第4章を参照）。上記3つの要素のうち1つでも欠けていれば研究とは呼べません。さらに重要なのが、この3つについてそれぞれ一定の約束ごとがあり、皆がそのルールに則って研究を行っているということです。“Research is a systematic process of inquiry”（Nunan, 1992, p. 3）と定義されるように、“systematic”（つまり決められた手順通り）に実行することが重要であると言えます。サッカーの試合中に選手がボールを手で持って走りだしてはいけないのと同様に、皆がルールに沿って研究を行うことが大切です。研究を行うための約束ごと、その元にある考え方も含めた方法・原理の体系を「研究の方法論」（research methodology）と呼び、本書ではその全体像を見渡すことを目指します。ルールに則った研究を行うことは、特に複数の研究を比較したりまとめたりするときに重要になってきます。これについては次の節で詳しく説明します。

## 2 なぜ研究するのか

### 2.1 研究を行う理由を考える

みなさんはなぜ研究をするのでしょうか。例えば大学の教員は、研究を

することが仕事の一部であるとみなされていますから、ある意味では業務の一環として研究を行っています。大学では、講師（または助教）から准教授、准教授から教授といった昇格審査の際に研究業績が評価されますが、これも研究が仕事の一部であることを示しています。

学生、特に大学院に所属をしている人は、学位の取得要件として研究をすることが学生生活の主たる目的となっていることでしょう。将来研究者になろうと考えるなら、公募による採用審査では研究業績が主要な判断材料の1つとして使われるため、学生のうちからコンスタントに研究業績を積み重ねることが重要です。

小中高の英語教師はどうでしょう。大学の教員や学生とは違って、研究を行うことは日ごろの業務には含まれない場合が多いでしょうし、忙しい毎日を送る中でさらに研究をしようとすれば、自分の時間を割かざるを得ないこともあるかもしれません。それでも研究を行うということは、研究テーマについて強い興味・関心があるということでしょう。私たちはみなある種の知的好奇心を満たすために研究を行っていると言えるかもしれません。その点では、研究者や学生の行う研究についても同じことが当てはまります。

ただ、英語教師にとっての興味・関心は、もっと個人的なもの、例えば「授業の中で同じ活動を取り入れているけれど、1組と比べて2組は定期試験の成績が芳しくないのはなぜだろう」といったものが多いかもしれません。この場合、2つのクラスで何がどのように異なっているのか、そしてその活動がなぜ2組では効果が出ないのかを理解することが研究の目的となるでしょう。また、「どのように活動を改善したら、2組では定期試験の成績が上がるのだろう」と考え、実践上の問題を解決することを目的として研究を行う場合もあります。効果が出ない原因を突き止め、授業改善を行った結果、2組の成績も1組と同じように向上すれば、研究が役に立ったと言えます。

### 2.1.1 実践としての研究と学術的な研究

上の例では、英語教育における研究が、教師個人の関心（この場合は担当する授業）から出発し、最終的に教師個人（の担当する授業）に還元されています。このように教師個人から出発し、個人に返ってくる研究を「実践

としての研究」(practitioner research)と呼びます。この場合、研究を行う研究者と実践を行う実践者は同一人物となります。実践としての研究の主な目的は、教師が自分の生徒たちについて理解を深めたり、実践上の問題を解決したりすることです。このように実践としての研究は個人的なものであるのですが、もちろん他の教師により影響をもたらすこともあるでしょう。

実践としての研究と対になるものとして「学術的な研究」があります。英語では、単に research と呼ばれたり、scientific research や academic research と呼ばれたりします。学術的な研究の大きな特徴は、その最終目標を研究結果の個人への還元ではなく、分野全体の向上・発展に置くことです。英語教育でいうと、自分の授業をよりよいものにすることが実践としての研究の目的であるのに対して、自分の授業という文脈を超えて、より多くの教室でも適用できるような知見を生み出し、英語教育(研究)全体をよりよくすることを目指すのが学術的な研究です。

## 2.1.2 実践としての研究と学術的な研究の共通点、相違点

実践としての研究と学術的な研究には共通点も多くあります。まず、どちらのタイプの研究も研究課題を絞り込んで設定する必要があります(研究課題の見つけ方や洗練のさせ方は第2章で解説します)。次に、データの質が重要であることでも共通しています。データの質は、対象・状況を研究課題に照らしてできる限りの確に記述することで高くなります。特に教室における英語教育研究においては、授業で実際に何が行われているのか、一人ひとりの学習者が何を考え、何をしているのかを詳細に把握することが重要です。

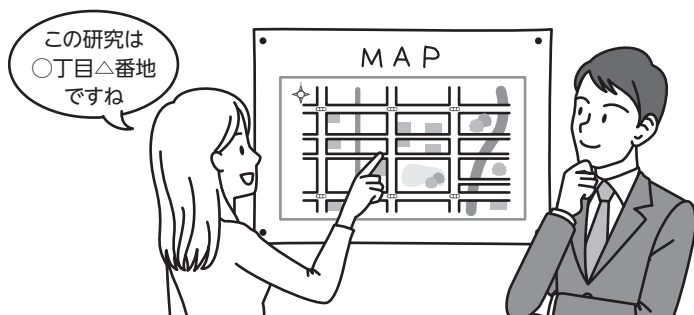
2つのタイプの研究が異なるのは、主にデータの分析・解釈においてです。実践としての研究は、研究者(≒実践者)の目の前のクラス、つまり直に接している学習者を深く理解したり、実践上の問題解決を行ったりすることを目的としてデータを見るのに対し、学術的な研究では多くの場合、研究対象としているクラスや学習者だけでなく、他の学校・年齢の学習者にも当てはまる傾向や法則がないかを探し出すことを目指してデータを分析します。したがって、「このクラスでうまくいった指導法が他のクラスや他の学校でもうまくいくか」といった一般化の問題も検討しなくてはなりません。

本書では、実践としての研究よりも学術的な研究の方法論に重きを置いて解説します。これは、実践としての研究の意義を軽視しているわけではありません。あくまでも、本書のスペース上の都合によります。実践としての研究の考え方や方法論については、吉田・玉井・横溝・今井・柳瀬（2009）を参考にしてください。

## 2.2 学術的な研究を分野全体の発展・向上に役立てる

学術的な研究の目標についてもう少し話を進めましょう。研究とは、実は地味で地道な営みです。1つの研究がその分野の全貌を大きく転換させるといったことはめったに起こりません。そのような可能性がまったくないというわけではありませんが、大半の研究はその分野の知見をほんの一步、または半歩前進させる程度でしょう。研究とは小さな探究の積み重ねであり、世界中の研究者による貢献が集約されることで、その分野の全体像が少しずつ明らかになっていくのです。

学術的な研究を分野全体の発展・向上に役立てるために一番大切なのは、自分の研究とこれまでに行われてきた他の研究とのつながりを明確に示すことです。そこで肝心なのが、自分の研究がいったいその全体像のどの部分に光を当てているのかを認識することです。英語教育（研究）という大きな地図があるとしたら、自分の研究がその中の何丁目何番地を調べているのかを報告することで、自分の研究の貢献を他の研究者にも認知してもらえるのです。



## 2.3 自分の研究と他の研究とのつながりを示す

自分の研究と他の研究とのつながりを示すというのは、実際には何をす

るでしょう。研究を行う際には、まず大まかな研究テーマを決めます。仮の研究課題と言ってもよいでしょう。次に、そのテーマに関連するこれまでの研究（先行研究；previous studies）を徹底的に検索し（そう、徹底的にやるのです）、読みます。先行研究を読んでまとめる作業は、いわばその分野の地図を作成することと言えます。その中で自分の研究テーマの位置づけを明確にし、それを先行研究と関連づけながら記述することがとても重要なのです。この作業を行う中で、研究テーマがより焦点化されたものとなり、具体的で調査可能な研究課題として形作られていきます（この過程については4節で振り返ります）。

自分の研究と他の研究とのつながりを明確にすることがどうして重要なのでしょうか。次の例を見ながら考えてみましょう。

英語教育に熱心で研究にも関心のある教師がいたとします。仮にU氏としましょう。U氏は自分の授業実践に自信があり、その成果を研究として発表したいと考えています。U氏は自分の指導法に自らの名前を冠し「Uメソッド」と名づけます。そして、そのUメソッドを使った授業を受けた生徒たちの英語力が明確に向上したことを定期試験の点数の伸びなどで示そうと考えます。実際に生徒に力がついていますし、U氏の英語教師としての能力は高いと思われます。しかし、このような形の発表は学術的な研究としては質が高くありません。なぜでしょうか。

まず、このままではU氏の指導法がなぜ効果的なのかわかりません。指導法のどの部分がどのように生徒に働きかけ、その結果どのような過程でどのような力がつくのかかわからないのです。もしかしたら、U氏は自分の授業を積極的に公開し、ビデオなどで多くの教師がその授業を見られるようにするかもしれません。しかし、実際にU氏の授業を見た他の教師が、そのやり方をそっくりそのまま真似したとしても、それがうまくいく保証はないのです。U氏の指導法の効果は、その（教師としての）個性に依存する部分が大きいかもしれません。もしそうだとすれば、性格の異なる他の教師がそのまま真似てもうまくいかない可能性が高いでしょう。

U氏の指導法がどうして効果的なのかを知るためには、そのメカニズムを解明することが必要です。そのための手がかりになるのが先行研究です。Uメソッドが英語のリーディング力を高める指導法だったとしましょう。Uメソッドの効果を検討するには、まずこれまでのリーディング研究の歴

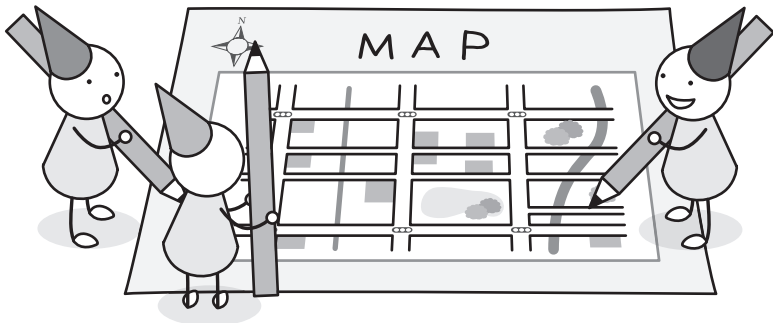


史を紐解き、類似する指導法の効果を対象にした先行研究を見つけることで、この指導法の位置づけを他の研究との関連の中で明確にする必要があります。Uメソッドのメカニズムを、先行研究で提示されている要因や結果を糸口として解明しようとするのが、この研究と他の研究とのつながりを明確にすることにほかなりません。

先行研究との関係をきちんと説明することは、その研究の価値を高めることにもつながります。Uメソッドに関する論文が発表されたとしましょう。それがどれだけ優れた指導法だとしても、Uメソッドを知らない人がその名前だけでこの論文を手に取り実際に読もうと思うことはあまり期待できません。しかしUメソッドが、例えば「リーディング指導法のうち、田中・島田・紺渡（2011）に基づく、内容理解をより深いレベルで行うための手がかりとしての効果的な発問の方法」であると定義されていれば、リーディング研究者はもちろん、多くの英語教師にとってもその研究の内容がわかりやすくなるので、興味を持つ人も増えるでしょう。

このように、自分の研究を他の研究と関係づけながら定義することが、その研究がどのように位置づけられるかを理解する手がかりになり、さらにそれを英語教育（研究）で一般に使われている言葉で説明することで、英語教育に関係するより多くの人にとって理解しやすいものとなります。英語教育の実践や理論（theory）を質的に向上させていくためには、的確な言葉で実践や理論を語るようになる必要があります。研究者の能力には、自分の研究をわかりやすく語る力も含まれるのです。

一人の研究者がその生涯で行うことのできる研究には限りがあります。同じ分野の研究者が100人、1,000人と集まり、互いの研究の関係を明確



に示しながら先に進むことで、分野全体の発展に貢献することが大切だと覚えておいてください。

## 3 どのような種類の研究があるのか

### 3.1 研究の大まかな分類

学術的な研究の目的は、その分野全体の向上・発展にあると先ほど述べました。表 1.1 は研究の種類を大まかにまとめたものです。

まず、研究は文献研究と実証研究に分けられます。文献研究とは、既存の資料や出来事の記録、当該テーマの先行研究を収集・整理し、そこからどのようなことが結論づけられるかを検討したり、今後の研究課題を提案したりするものを指します。独立した研究として、理論研究としても成り

表 1.1 研究の種類

| 種類   | アプローチ             | 研究を行う目的               | 探索／<br>検証                        |
|------|-------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 文献研究 |                   | 1. 先行研究を整理し内容を検討する    |                                  |
| 実証研究 | 質的研究              | 1. 文脈を考慮して事象を捉える      | 探索型<br>↑<br><br><br><br>↓<br>検証型 |
|      |                   | 2. 文脈を考慮して参加者の変容を捉える  |                                  |
|      |                   | 3. 参加者の経験や認識を捉える      |                                  |
|      |                   | 4. 先行研究の対象外の事象を明らかにする |                                  |
|      | 5. 研究の信憑性を高める     |                       |                                  |
|      | 量的研究              | 1. 事象の特徴や傾向を量的に記述する   |                                  |
|      | 2. 事象の関連性を捉える     |                       |                                  |
|      | 3. 事象の差異や因果関係を捉える |                       |                                  |

立ちますし、いわゆる歴史研究や教材開発研究もここに含まれます。例えば、資料から戦前の英語教育の実態を明らかにしたり、過去に発行された教科書を網羅的に分析して傾向を示したりする研究がそれです。稲葉(2009, pp. 30-31)が指摘するように、過去の出来事を研究の素材にするため倫理問題が起きにくく(第5章を参照)、独力では実施しにくい調査・実験と比べれば一人でも取り組みやすいという利点があります。先行研究の検討の仕方については第3章3節で詳しく解説します。

一方、実証研究とは、先行研究ではまだ明らかになっていない課題について、研究者自らが新たにデータを収集したり、(公的機関が実施した統計調査のような)既存のデータを利用したりすることによって理論の生成・検証へと向かうものを指します。研究の目的によって研究のアプローチは質的研究と量的研究の2つに大きく分けられ、データの種類と収集法、分析法が異なります。データの収集法と分析法は第4章、第5章、第6章で詳しく解説します。ただし、本書は自らデータを収集するタイプの研究を中心に置いており、国勢調査で用いられるような、別の研究で収集されたデータを二次的に利用するタイプの実証研究については触れていません。後者については寺沢(2015)などを参照するとよいでしょう。

## 3.2 実証研究の種類

実証研究には多くの種類があり、表1.1に示すように、どの程度探索的か、検証的かという観点で分類することができます。

### (1) 探索型の研究

先行研究がまだ十分に蓄積されていない、比較的未開拓の研究テーマが存在します。また、先行研究が十分に蓄積されている場合でも、これまでに行われている研究とは異なる視点で研究を行ったり、現象をさらに深く理解するための研究を行ったりする場合があります。こういった場合の研究課題は、現象の原因を問うよりは、その現象がいったい何なのか、どうなっているのかを調査するといった形になるでしょう。

このように、先行研究の情報だけでは明確な方向性が予測できない研究では、あらかじめ何をどのように調査すればよいかの手がかりが少なく、手探りに近い形でデータの収集と分析・解釈を行います。このような研究